交通網充実が強み　増える埼玉新拠点

モノづくり企業などによる埼玉県内での拠点新設が相次いでいる。埼玉の強みは、交通網の充実と大消費地・東京に隣接している点。人口も増えており、県内経済のポテンシャルを指摘する声は少なくない。

2014年度に宇都宮線と高崎線の東京駅乗り入れ工事が完了し、加えて、同年度以降には圏央道桶川北本インターチェンジ（IC、桶川市）―白岡菖蒲IC（白岡市）間が開通する見通し。利便性向上に伴い、拠点新設の流れはさらに加速しそうだ。既に県内新拠点の稼働を開始した4事例を紹介する。

三郷市に大型物流拠点　低温事業拡大へ

三郷流通センター

国分（東京都中央区）

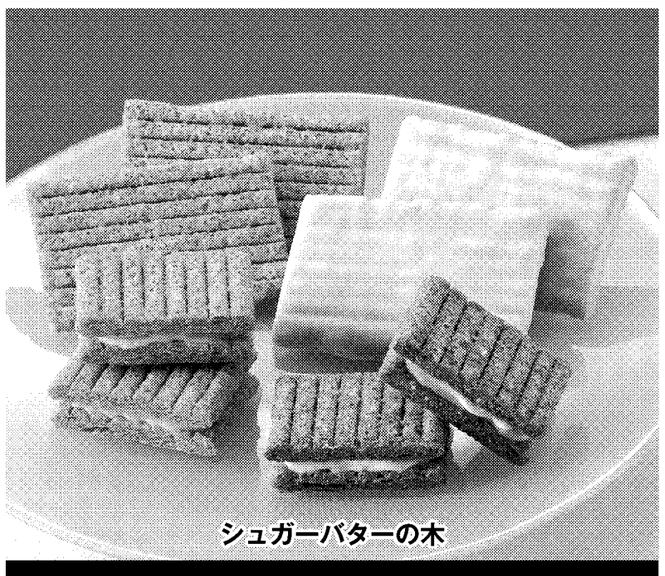
国分（東京都中央区、國分勘兵衛社長、03・3276・4000）は4月、三郷市内に三郷流通センターを開設した。常温、冷凍、冷蔵の3温度帯に対応する汎用物流拠点機能を持つのが特徴。複数拠点の集約で、食品卸売事業の効率向上につなげている。

同センターは三郷ジャンクション（JCT）近隣の土地に立地。交通面での利便性を理由に、この地を選択した。「三郷市の積極的な誘致活動も決め手になった」（相澤正邦低温・フードサービス統括部長）という。

施設は4階建てで敷地面積が3万9648平方㍍の延べ床面積が7万3597平方㍍。1―2階は顧客1社の専用フロアとしている。3階部分を受け持つのは、首都圏で低温事業を展開する子会社の国分フードクリエイト東京。計約9900平方㍍の冷凍・冷蔵庫で総菜、冷菓、冷食など多様な食品に対応している。

同センターの新設は低温事業の拡大が大きな目的。効率アップのため、従来埼玉県内などに点在していた7カ所の低温事業拠点を統合した。現在、こうした大型汎用センター新設による複数拠点の集約を進めており、9月には藤沢流通センター（神奈川県藤沢市）も開設した。これを戦略の一つとし、「低温事業については、15年度の売上高を現状比3倍強の4500億円近くにしたい」（同）としている。

桶川移転で生産力増強　物流拠点へのアクセスが決め手



シュガーバターの木

グレープストーン（東京都杉並区）

グレープストーン（東京都杉並区、荻野惇社長、03・3316・0003）は2010年8月、桶川工場（桶川市）の稼働を始めた。同工場は平屋で延べ床面積が約8900平方㍍。川口市内の工場から移転し、生産能力を従来比7―8倍に高めた。

同社は洋菓子・和菓子の製造・販売が主力。桶川工場稼働開始の約1年前にあたる09年に、前述の川口工場を新設した。同工場では、当時力を入れていた新製品を生産。「売れ行き好調だった」（総務部）という。だが、その販売量は予想以上。もはや同工場ではカバーしきれない状況となった。

そこで同社は、移転による生産能力増強を急ぎょ決定。「大至急候補地を探すことになった」（同）。移転先の条件は、物流拠点を兼ねる浦和工場（さいたま市桜区）へのアクセスが良好なこと。必然的に埼玉県内に目が向けられた。

結果、移転先として選定したのが、桶川東部工業団地内の空き工場。工場の所有企業から賃借し、衛生面に配慮した食品工場に改装した。「十分なスペースがあり浦和工場とのアクセス面も問題ないことが、決定要因」（同）としている。

今春には賃借スペースを拡張し、能力をさらに増強。現在、パートを含め約300人を雇っており、住民の就業先として地域に貢献している。

11年に大宮へ移転　生産拠点とのアクセス向上

自社ブランドヘルメットを展開

DICプラスチック（さいたま市大宮区）

DICプラスチック（さいたま市大宮区、豊嶋潤一社長、048・658・8855）は2011年6月、本社を東京都千代田区から現在の大宮ソニックシティ内に移した。館林工場（群馬県館林市）や製造子会社のDICモールディング（伊奈町）など生産拠点へアクセスしやすくするのが目的。「（最寄り駅の）大宮駅は新幹線の停車駅で、都内へも出やすい」と豊嶋社長は指摘する。こうした営業拠点としての利便性も考慮し、現所在地を選択した。

同社はDICの100％出資子会社で、ヘルメット、食品容器、医療用診断容器など各種プラスチック成形加工品を手がける。企画デザインから納入まで一貫生産しているのが特徴。例えば医療関連では、容器への薬液充填もクリーンルーム仕様の自社工場で行っている。

「製造部門とのこまめな打ち合わせは欠かせない」と豊嶋社長は強調。移転により移動時間が短縮され、業務効率向上につながっている。

また、93年までは戸田市内に工場を持っていたため埼玉在住の社員が8割近くを占めている。「通勤しやすくなって喜んでいる社員は多い」（豊嶋社長）という。

14年度には、宇都宮線と高崎線の東京駅乗り入れ工事が完了する見通し。これにより、「大宮駅の利便性がさらに高まる」と豊嶋社長は期待している。

川越事業所で新規顧客開拓　秩父エリアにも進出

レーザー加工機で大型ワークに対応

ヨシケン（東京都板橋区）

ヨシケン（東京都板橋区、吉柴博社長、03・3969・4471）は、各種鋼材の加工・販売が主力。2010年11月に、川越事業所（川越市）を開設した。「既存工場では手狭になっていた」と吉柴社長は拠点新設の理由を明かす。

同事業所は、敷地面積が約3200平方㍍で延べ床面積は約2480平方㍍。一部が2階建てとなっている。「戸田市内の既存3工場の合計を上回る規模」（吉柴社長）だという。レーザー加工機、ビームワーカー、バンドソーなど10台近くの設備を導入。例えばレーザーならば3200㍉×20㍍など、従来手がけられなかったワーク（加工対象物）に対応できるのが特徴だ。建屋購入、改修、設備など合計で4億円前後を投資した。

戸田の工場から離れていないことが、川越を選んだ理由の一つ。各工場で得意分野が違うため、同一顧客でも受注内容ごとに別工場で対応する場合があるからだ。

同事業所開設以来、対応領域が広がったことにより計60件近くの新規顧客を獲得。「できるだけ早く、累計獲得数100件を達成したい」と吉柴社長は意気込む。また、拠点新設を機に営業エリアも拡大。今年度からは秩父市周辺地域の開拓を始めている。12年4月期の売上高は約11億円。今後5―6年で「20億円近くまで成長させたい」（同）としている。

since 1950　大栄不動産　検索

大栄不動産は新しい価値を創造します。
安定成長を支えるのは、お客様との信頼関係

「誠実と信用」を第一に、総合不動産会社として幅広く事業を展開しています。
快適な業務空間、生活空間の創造を通じて、
法人から個人まで不動産のあらゆるニーズにスピーディーにお応えするため、
ビル事業・パーキング事業・住宅事業・不動産営業の各部門が
伝統ある独自のネットワークと専門機能を発揮して、高品質の商品、サービスを提供してきました。
熊谷市では、有料老人ホーム「グリーンフォレストビレッジ」の運営を手がけており、
東松山市においては、産業団地の開発にも携わっております。
そうして築いたお客様との信頼関係が当社の安定成長を支えているのです。
これからも「社会の発展を支え、よい住まいとよい環境をお届けする」をモットーに
新たなフィールドを開拓し続けます。

人と暮らしのこれからに
大栄不動産
ビルの賃貸・管理、不動産の売買・仲介・鑑定、住宅分譲、駐車場の運営・管理、有料老人ホーム運営・管理
本社　〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目1番8号 TEL 03-3244-0625
東京支店　TEL 03-3244-0621／立川出張所　TEL 042-522-8791／大宮支店　TEL 048-647-0992／熊谷出張所　TEL 048-522-0911
浦和支店　TEL 048-829-2466／川越支店　TEL 049-246-6156／越谷支店　TEL 048-985-3801